

お隣の吉田保育所で「お店屋さん遊び」をする行事にお呼ばれした。例年だと「レストラン」を開いて、年長組の子供たちがメイドさんとなり、簡単な食事会をするのだが、コロナウイルス感染予防のために、今年は「お店屋さん遊び」になったとのこと。

私も例年は、ときどき保育所に行って次年度入学する子供たちの様子を見させてもらっていたが、今年は初めて子供たちと接する機会となった。

感染率の低い幼児は、マスクをしなくともよいので、「マスクなし」で子供同士で笑ったり、ふれあったりする姿にちょっと感動してしまった。年長さんが開いたお店はどれも工夫がされていて、手作りの賞品もたくさんもらった。1歳や2歳の子供たちもお客さんとして、年長さんに優しく接してもらっているのが微笑ましい。次年度に長瀬小に入学する子供一人一人をよく見させてもらったが、どの子も本当にしっかりしていて驚いた。どうしても1年生を「赤ちゃん扱い」してしまいがちだが、受け入れる私たちの意識を変えなければならないと改めて感じさせられた時間であった。

これは卒業する6年生にも言えることで、中学校1年生だからといって甘えるのではなく、学校の一員として自覚を持って、最初からしっかり振る舞ってほしいと思う。それだけの力を長瀬小の6年間で身に付けたはずだし、私たちも自信を持って送り出すことのできる子供たちだと思っている。

卒業アルバムの「校長の言葉」も書き終え、担当の児童に渡した。花粉症の気配を感じながら、卒業式の式辞をどうするか？と悩む季節がやってきた。